

学校運営協議会だより

文責 CSコーディネーター中村

今回の学校運営協議会だよりは、教育委員会に勤務する牧野直樹指導主事を紹介したいと思います。



教育長を補佐
校長・教頭先生に指導助言
専門的事項すべての事務従事

指導主事は、次のような業務をされています。

「京極町における指導主事の職務と職能的領域」

指導主事は、学校における教育課程、学習指導その他学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する教育委員会事務局の職員で、専門的職員です。また、教育委員会の指導機能に関する教育長の職務を補佐することが、指導主事の職務とされています。そして、学校の校長・教頭に対し指導助言するのみだけでなく、専門的事項の指導に関するすべての事務に従事しています。

ここで、「GIGAスクール構想とは何か？」指導主事にお聞きしました。

文部科学省(作成資料)は、「GIGAスクール構想」として、Society 5.0時代 を生きる子どもたちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術の効果的な活用を進めています。このため、1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することにより、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる。」としています。このような構想の中、京極町においても、児童・生徒一人ひとりに端末を貸与し、授業や特別活動・総合的な学習の時間などにおいて活用されています。

保護者の皆様には、小学校・中学校の授業参観等で子どもたちがICT(タブレット端末)を活用する様子をご覧いただいていることと思います。

■中学校の活用例 数学 7月2日(火)



■小学校の活用例 国語 7月8日(日)



ここでは、地域学校協働活動を紹介させていただきます。

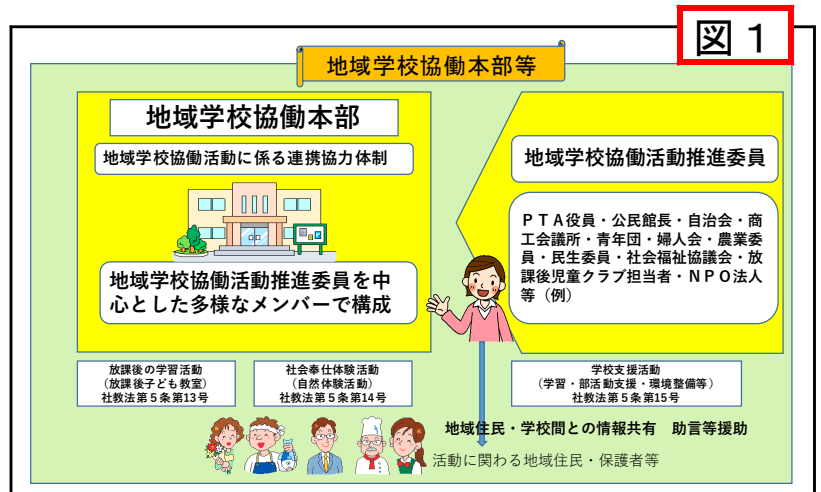
子どもたちが生きる未来は、少子高齢化により社会が激しく変化し、人口減少、財政等の課題が深刻化すると考えられています。日本創生会議で示された資料では、2024年には少子化と人口流出により若年女性人口が半分以上となる自治体(消滅可能性都市)が896になり、生産年齢人口も8,178万人(2010年)→4,418万人(2060年)半数になると予測しています。

子どもたちが幸せに安心して暮らせるまち、子どもたちが「志」を果たしていける未来を創り上げていくためには、自分たちが「当事者」として、自分たちの力で学校や地域を創りあげていくことが必要と考えられています。そして「学校を核とした地域づくり」を目指し、次のような活動が展開されています。

地域学校協働活動(図1)は、平成29年3月の社会教育法の改正により、法律に位置付けられました。活動内容は、ボランティア活動への参画・防災学習など地域の実情により様々です。学校と地域がパートナーとして連携(図2)する様々な活動が推進されます。

多くの関係者間でビジョンや目標を共有し、幅広い地域住民の参画により、活動を活性化させるなど、学校運営協議会と地域学校協働本部の双方が、両輪として相乗効果を発揮し、学校と地域が対等な立場の下で、相互補完的に連携・協働(図2)することが期待されています。

次に、先月行われた中学生のボランティア活動を紹介します。



中学生のボランティア活動の紹介

□堀川 真さんによる読み聞かせ(右写真)

7月7日(日)13:30~15:30 湧学館2階文化教室にて「湧学館開館 20周年記念事業」「絵本作家 堀川 真さんとおはなし会&つくろうあそぼうアソベル堂」を開催しました。最初に堀川真さんご自身による「ふあいたーずつよさのひみつ」「あかいじどうしゃ よんまるさん」の読み聞かせを行いました。



□中学生によるボランティア活動(右写真)

堀川 真さんの読み聞かせの後、参加した子どもたちは4種類の簡単な工作(ストロー工作・折り紙口グット工作など)に挑戦しました。中学校からは5名の生徒が駆けつけ、参加した幼児~小学生に支援を行っていました。中学生の皆さんボランティア活動ありがとうございました。



次回NO7では、「特別の教科道徳」の取組を紹介させていただきます。